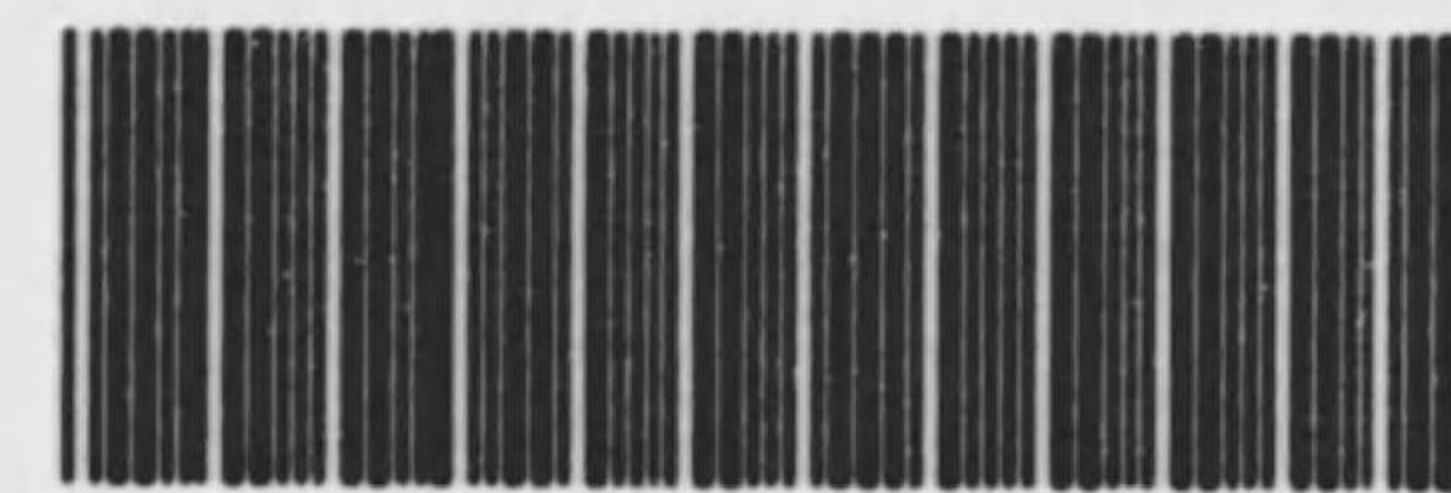


334.31

Z28z



0025075000

0025075-000

334.31-Z28z

人口問題ニ関スル世論

人口食糧問題調査会・編

人口食糧問題調査会

1928

ADE

人口問題ニ関スル世論

人口食糧問題調査会

人口問題ニ關スル世論

人口食糧問題調査



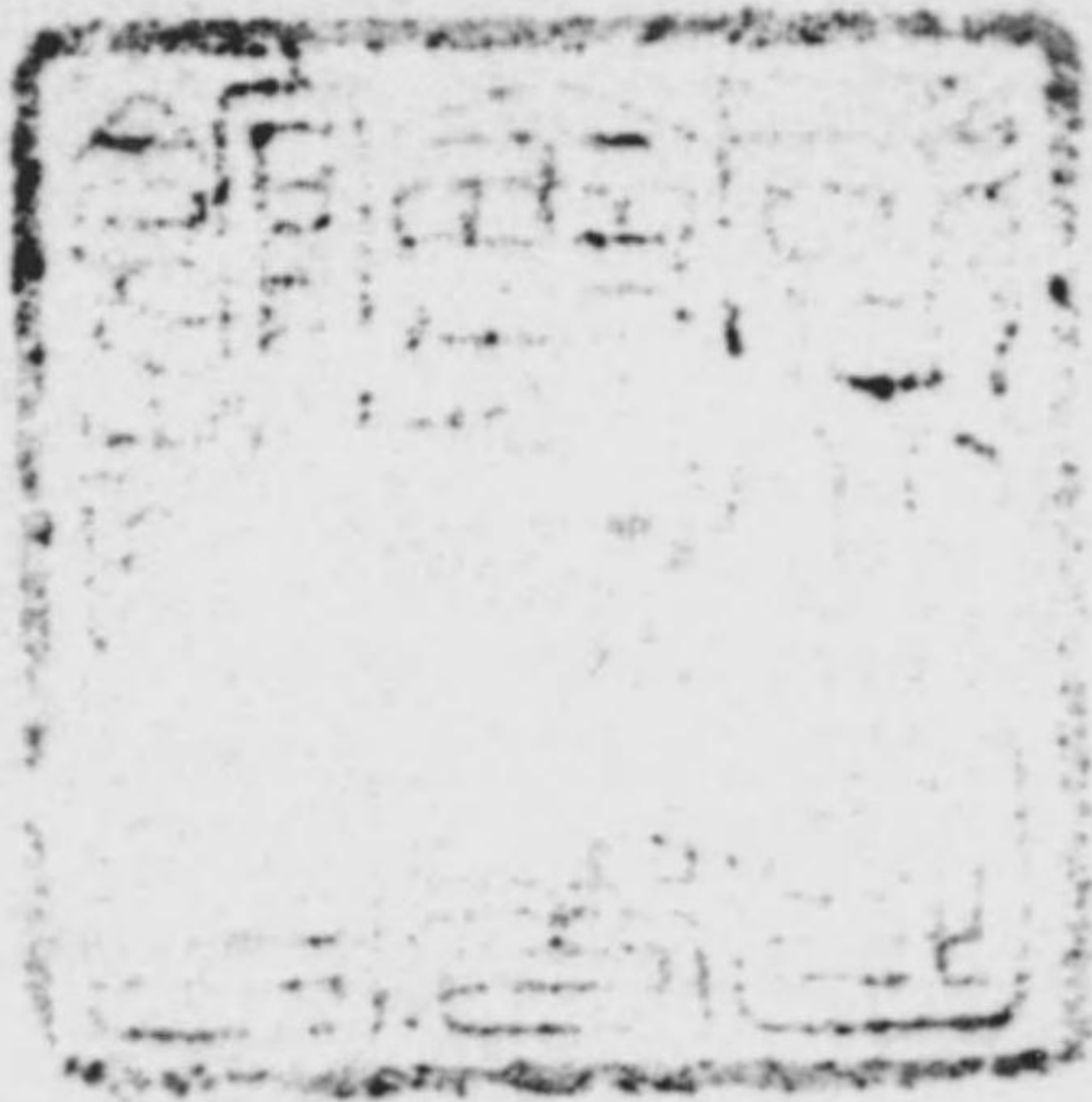
334 318 283

例言

一、本調査ハ大正十一年以降昭和三年一月ニ至ル人口問題ニ關スル文献ヲ年代順ニ蒐集シ、主張ノ大要ヲ略記セルモノナリ。

一、短時日ノ調査ナリシ爲、文献ニシテ脱漏セルモノアルベク、又主張大要ノ略記等ニモ誤謬ナキヲ保シ難シ。大方ノ諒恕ヲ請フ次第ナリ。

昭和三年一月



275115

人口問題ニ關スル世論

著者	米田庄太郎	島崎一郎
略歴	文學博士 京大教授	
著書名又ハ雜誌名及ビ年月日	大正十一年二月五日發行	社會政策時報 大正十一年三月號
題目	現代人口問題	最近各國政府ノ採レル移民政策
主張大要	<p>今日人口問題トシテ注意スベキハ</p> <p>(一) 出生率減少傾向ノ増進</p> <p>(二) 都市集中ノ傾向ノ増進ナリ</p> <p>一、各國ノ移民政策ハ個人的立場ヲ離レ、國民的立場ヨリ政策ヲ立ツルニ至レリトス</p> <p>二、移民ヲ悲觀的立場ヨリ見ル</p> <p>一、人口對策トシテ商工業ノ振興ヲハカリ、外國食糧品ノ供給ヲ以テ内國食糧品ノ不</p>	

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
高野岩三郎	法學博士 大原社會問題研究所長	大正十四年四月發行	我邦人口ノ現在及將來	一、足ヲ補フベシ 二、社會ニ於ル富ノ公正ナル分配ニ依リ經濟界ノ發達ヲ促カス 三、社會政策ノ實行ニ努ムルコト必要ナリ
氣賀勘重	法學博士	大正十四年發行	農村問題	一、農村人口解決策トシテ商工業ノ發達移殖民獎勵ニ因ルハ其ノ效果ノ多キヲ望ミガタシ 二、農工商三業併行主義ヲ採ルヲ必要トス
山本美越乃	法學博士 京大教授	經濟論叢 第二十三卷第九號	再ビ我が國ノ人口問題ニ就テ	一、人口對食糧問題ニ付テハ人口制限ヲ排シテ食糧增加策ヲトルベシト爲シ、人口對職業問題ニ對シテハ農業方面ヨリモ、商工業方面ニ増加人口ヲ吸收スベシト爲ス 二、移民ハ大イニ之ヲ獎勵スベシト爲ス
神川彦松	法學士	中央公論 大正十五年四月號	人口問題ノ見地ヨリ我外交政策ノ基調ヲ論ス	一、人口政策トシテ 二、移殖民政策可 三、商業立國策可

大西猪之助	商學士	大正十五年五月十日發行	人口ト國力	一、單純無條件ニシテ絕對的ナル人口増加獎勵論ハ絕對不變ノ真理ナラズ 二、農業特ニ米作ヲ今後更ニ不自然ニ獎勵スルハ永遠ノ策トシテ不利 三、日本ニ於ケル人口過剩對策トシテ日本ノ商工業ノ發展ノ希望ヲ有ス
布川靜淵	文學家	丁酉倫理講演集 大正十五年五月	人口調節と移民の價值	一、人口問題解決策トシテ移民ハ殆ンド其ノ價值ヲ有セズ
松岡正雄	新聞記者	大正十五年發行	植民及移民ノ見方	一、植民地統治策ヲ四主義ニ分チ本國、自由、同化及自治トシ植民地ハ元來各社會、歷史、習俗諸制度ヲ尊重シ漸次ソノ進步ヲ圖ルヲ要ス 二、植民政策ハ經濟的自治主義ニ基調ヲ置クベシ
東郷實	農學博士	大正十四年十月	植民政策ト民族心理	一、異民族統治ノ根本ハ民族心理學ニ基調ヲ置クコト 二、異民族統治策ニ對シテハ「文化政策」ヲ基調トシタル順應主義ノ採用ヲ要ス

人名	略歴	著者名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
同前	同前	大正十五年四月發行	植民夜話	一、移植民政策ヲ人口問題一部ノ解決策トナス 二、「大日本主義」ヲ以テ海外發展ヲナシテアジア八億ノ民衆ヲ救済統合スベシ
C、M、ズーチ		日印協會々報 大正十五年五月號	印度ノ人口ト食糧政策	人口政策トシテ 一、産兒制限可 二、自治制度ノ樹立可 三、移民可
海外興業會社		外交時報 大正十五年六月	新日本ノ植民政策	人口問題解決トシテハ ブラジルニ移民セヨ
井上清		同前	同前	人口問題解決策トシテハ南洋方面ニ發展スベシ
松岡正男	大阪朝日新聞記者	同前	同前	人口問題解決策トシテ アジアニ於ケル日本人ノ移住及企業ノ自由ヲ要求ス
坂上貞信		同前	同前	人口問題解決策トシテ 南米、南洋、サイベリア、支那等へ移住スベシト論ズ

人名	略歴	著者名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
堀口九萬一	前ブラジル駐伯大使	同前	同前	人口問題解決策トシテ 米國及英領自治植民地ニ於ルル排日ノ結果「自治ト平等」トシテ ヲ金科玉條トセルブラジルへ移住スベシト説ク
神戸正雄	法學博士 京大教授	同前	同前	人口政策トシテ 商工業ノ發展ヲ唱フ 移植民政策ニ就テハ植民地及ハ日本ノ勢力範圍地即チ朝鮮及滿洲へノ移民ヲ必要ナリト説ク
竹越與三郎	貴族院議員 法學博士	同前	同前	人口問題解決策トシテ 南洋方面ニ發展スベシト説ク
長谷新一郎		同前	同前	人口問題解決策トシテ メキシコニ大イニ移住スベシ 米國ニ於ケル日本移民ノ排斥善後策トシテ、同地殊ニカリ フオルニアノ日本人ヲメキシコニ送レト説ク
後藤新平		同前	同前	植民政策ニ就テ 大亞細亞政策、人種統一策トイフモノニ根據ヲ置キ遂行ヲ期スルニ非レバ、共ニ滿蒙ノ政策ヲ論ズルニ足ラズ

人名	河田 嗣郎	大隈 重信	中島 信虎	中野 正剛	内田 嘉吉
略歴	京大教授士	故早大總長		衆議院議員	貴族院議員
著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	同前	同前	同前	同前	大正十五年末東京朝日新聞紙上ニ掲ケラレタル「經濟隨想」ニ依ル
題目	同前	同前	同前	同前	海外ニ發展
主張	人口政策トシテハ生産業ヲ盛ニシテ勞働機會ヲ豊カナラシメヨト説ク	人口政策トシテ天然資源ノ豊富ナル所カラ其ノ貧小ナル所ヘ物資ヲ供給スルト同時ニ又人口過多ナル所カラ其ノ稀薄ナル所ヘ人口ヲ移植スルヲ必要トスト説ク	移民ハ人口問題ノ解決策トナラズ、優良者ヲ出スハ損失ナリト説ク	植民政策トシテ滿蒙、朝鮮又ハサイベリアヘ移住スベシト主張ス	人口政策トシテ海外ニ發展セヨト説ク

人名	野田 信夫	鹽澤 昌貞	永井 柳太郎	横井 時敬	財部 静治	大河 平隆光
略歴	早大教授	早大教授	衆議院議員	農學博士 法學博士 故農業大學 總長 帝國農會 々々	法學博士 京大教授士	
著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	外交時報 大正十五年六月一日號	外交時報 大正十五年六月號	同前	同前	同前	同前
題目	我が國ノ過剩人口	新日本ノ植民政	同前	同前	同前	同前
主張	過剩人口ヲ決定スル條件ハ一國ノ經濟生活状態ヲ決定スル條件トナリ、從ツテ過剩人口ニ對スル方策トハ、即チ一國ノ産業政策ニ外ナラズ	増殖シツツアル人口ノ處理ト民族ノ發展トヲ主トシテ植民地ノ經營ニヨルベシト説ク	人口問題解決策トシテ滿蒙、朝鮮又ハサイベリアヘ移住スベシト主張ス	人口政策ニ就キテハ農業ヲ發達セシムルト共ニ社會政策ヲ行ヘバ移民ノ必要ナシ	人口政策ニ就テハ人口ノ質ノ向上ヲ圖レバ、人口増加率低下スベク從ツテ移民ノ必要ナシト説ク	我國ニ於ケル移住現象ハ人口過多又ハ貧窮ニ基因セス

高島素之	高田保馬	鶴見祐輔	小村欣一	山川均	北澤新次郎	石射猪太郎	人
著作家	文學博士 九大教授	著述家	外務省 情報部長 貴族院議員	評論家	早大教授	外務省通商 局第三課長	略歴
同前	同前	同前	同前	同前	經濟學 大正十五年七月 號	外交時報 大正十五年七月 號	著書名又ハ雜誌 名及ビ年月日
人口問題樂觀漫 想	産メヨ殖エヨ	人口問題ノ解決 策	食ニ非ズ職ナリ	人口問題ノ謎	人口問題ノ根本 策	移民問題ト人口 問題	題目
解決策 一、耕作方法ノ改善ヲナスベシ 二、耕地ノ擴張ヲナスベシ	人口問題解決策トシテ 一、産兒制限不可 二、人口増加ハ自然ニ解決セ ラルベシ	一、工業振興策ヲ以テ解決策ト ナスベシ	解決策 一、産業ヲ振興スベシ	一、資本主義ノ下ニ於テハ人口 問題解決ノ方法ナシ	一、産兒制限可	移民ハ人口問題解決ノ一方策ナ リ	主張大要

田川大吉郎	井上哲次郎	エス トムブソン	淺見登郎
衆議院議員	文學博士	合衆國オハ イオ洲 マイアミ大 學教授	ドクトル、 オプ、 ソフ、 フイ、 イ
同前	太正十五年十月 陽	大藏省理財局調 査月報 大正十五年九月 號	外交時報 大正十五年六月 一 日五號、 八月一 日五號
人口問題ノ對策	暉峻義等論 産兒調節ニ關ス ル一考察ニ就テ	英國ノ商工立國 策ト海外貿易ノ 將來	新日本ノ植民政 策
一、産兒制限ヲ行フベシ	理性ヲ加ヘテ産兒ヲ調節スルコ トハ當然ナリト主張ス	世界列強ノ自給自足政策ヲ採レ ル現狀ヨリ見テ我國ノ人口問題 ニ就テ 一、商工立國策不可 一、農業立國策可	我植民地ヘノ移住ヲ獎勵スベシ トス、殊ニ知識階級ノ男女ガ新 領土ニ移住經營スルコトヲ切望 ス但シ鮮人ノ鮮外移住ハ日本統 治上ノ見地ヨリシテ、餘リ好マ シカラズトス

人名	暉峻義等	浮田和民	副島義一
略歴	醫學博士 倉敷大原勞 勸科學研究 所長	法學博士	法學博士
著書名又ハ雜誌 名及ビ年月日	太陽 大正十五年十月 號	同前	同前
題目	産兒調節ニ關ス ル一考察	國家問題トシテ 見タル産兒調節	産兒制限問題
主張大要	現代社會組織下デハ無産階級ニ 於ル良種多産ノ原則ハ許サレ ズ、即チ産兒調節ノ方法ヲ適用 スルコトノ避ク可カラザルコト ヲ意識セザルヲ得ズ	死亡率ヲ低クスル要件ハ出産率 ノ低下ニアルコト各國統計表ノ 示ス所ニヨリテ明ナルヲ以テ、 産兒ヲ制限シ一國ノ必要トスル 程度ニ調節シ得ル科學的良法ア ラバ、コレヲ實行スルノハ文化 國民ノ自由ナリ	人口問題ノ解決ハ移民ヲ以テナ スベク産兒制限ヲ以テナスベカ ラズ 一九二八年四月英國宗教會議特 別委員會ニ於ケル委員ノ意見 一、或ル派ハ産兒制限ニ絶對

人名	淺田江村	石渡安躬	堤寬一	松岡照二
略歴		新聞記者	醫學博士	
著書名又ハ雜誌 名及ビ年月日	同前	同前	同前	同前
題目	産兒制限ノ英國	生レル事ノ抑止	一二人ノ人工妊娠 中絶ノ適應證	世界的ニ見タル 人口増加ノ大勢
主張大要	反對ヲ唱ヘ結婚ノ目的ハ 民族ノ繁殖ニアリトス 或ル派ハ聖書ガ避妊ノ行 爲ヲ絶對ニ禁ゼズトノ見 解ヲ有ス然シ尙ホ相當強 キ反對論者ナリ 或ル派ハ「キリスト」教ノ 如何ナル見地カライフモ 妊婦ヲ調節スルコトハ罪 惡ニアラストナス	日本ノ國狀、國民保健、個人ノ 貧富ヨリ論ズレバ一家族四名、 一家四人暮ヲ妥當トス	避妊法トシテ家庭的ニ應用サレ テ居ルモノヲ分類スレバ藥物的 器械的操作ニ大別サレル。其效 果ハ不確實ニシテ尙ホ恐ルベキ 傳染其ノ他ノ不利ヲ伴フ、確實 ナルハ、手術的方法及レントゲ ン線ノ應用ナリ	人口問題ハ重大ナル戰爭ノ原因 トナル恐レアルガ故ニ世界各國 全體ガ總ガカリテ之ヲ處理スル コトヲ要ス

人名	略歴	著書名又ハ雜誌名及ビ年月日	題目	主張大要
山田わか	著述家	太陽 大正十五年十一月號	機械主義ニ因ハレタ産兒調節論	人口増加率ヲ低減セシムルハ國ノ富源ト力トヲ減退セシムルコトナリ、生レ來ル人間ヲ皆生産的ニ有益ナル人間トナスヤウ努力カスベシ
清澤 冽	新聞記者	同 前	英米ニ於ケル産兒調節運動	産兒調節ノ問題トナルト英國デハ今ヤ議會ニ於テモ公然討議サレテ國家的大問題トシテ研究サレテ居ルニ對シ、米國ニ於テハ未ダ其レ程世間ノ注意ヲ引カヌ、英國ニ於ケル此ノ問題ニ對スル贊成理由 一、生活ノ困難 二、母子健康ノ爲メ 反對理由 一、産兒調節ハ自然法ニ反ス 二、人口ヲ減ラスコトハ國家ヲ弱クスル 三、産兒調節方法ニ完全ナルモノナシ
安部 磯雄	社會民衆黨 領袖	同 前	産兒調節ノ社會的意義	産兒調節ハ之ヲ實行スルコトニヨツテ、貧乏問題、人口問題、優生學ノ問題モ同時ニ幾分ノ解決ガ出來ル
宮川 米次	醫學博士	同 前	生物學上ヨリ見タル産兒制限問題	産兒ヲ制限セズシテ若シモソレ以上益々人口ノ増加ヲ見ルコトトナラバ、勢ヒ生活苦ハ色々ノ形デ現ハルベシ、故ニ産兒ハ一定數ニ於テ制限スベシ
山本 宜治	理學士	同 前	歐米ニ於ケル産兒調節施設	宣傳ノ割ニ實行ニ手ガ廻ラズ、相談所ハ手薄デ集メタル記錄資料モ貧弱極マルトイフノガ日本ニ於ケル産兒調節ノ現状ナリ
半澤 玉城	同 前	同 前	個人トシテハ可、國家トシテハ未ダシ	個人トシテハ可、國家トシテハ未ダシ 日本ノ要務ハ過剩人口ノ始末ヲ考フルヨリモ、人口ノ生産化ヲ考慮スベシ
小池 四郎	同 前	同 前	産兒調節ニ關スル問題二三	吾々ノ此ノ問題ニ關スル第一回統計ノ結果ニ依レバ相談者百三十二名ノ内、頭腦労働者六十名、筋肉労働者三十一名、當面ノ問題トシテ筋肉労働者二十分産兒調節ノ意義、内容ヲ知悉セシムベク努力スルコトヲ要ス

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
雜誌 太陽		大正十五年十月號及十一月號	産兒調節ニ關スル意見	雜誌太陽大正十五年十月號及十一月ハ左ノ二問 (一)一家ノ經濟上多數ノ子女ヲ養シ得ナイ場合ニハ産兒ヲ調節シタ方ガヨイデセウカ (二)我國現時ノ状態ヨリ見テ産兒ノ調節ハ必要デセウ ニ對スル回答ヲ掲ゲタリ 回答者一六〇名中肯定否定ノ内譯ヲ見ルニ 第一問ニ對シテハ 肯定一〇六名、否定四三名 第二問ニ對シテハ 肯定一〇名、否定六九名、不明一一名ナリ
山下龜三郎	山下汽船會社社長	大正十五年末東京朝日新聞紙上ニ掲ゲラレタル「經濟隨想」ニ依ル	食糧ト人口	一、人口ハ殖ヘル程可ナリ 二、食糧ノ目標ハ他給自足ニ置ク 人口政策トシテ 一、商工業ヲ發達セシメヨ 二、農村人口ヲ都會ニ移セ
松本蒸治	法學博士 貴族院議員	大正十五年末東京朝日新聞紙上ニ掲ゲラレタル「經濟隨想」ニ依ル	人間ノ遺リ場	人口政策トシテハ 工業政策ヲ解決策トナス

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
藤原銀次郎	王子製紙社長	社會政策時報 大正十五年十二月號	行キ惱メル日本ノ人口問題六二頁註六	人口政策トシテハ 工業政策ヲ解決策トナス
南亮三郎	小樽高商教授	社會政策時報 大正十五年十二月號	行キ惱メル日本ノ人口問題	一、農業、商業、工業ノ人口問題對策トシテノ效果ヲ疑フ 二、解決ノ方法トシテ人口制限及生活程度ノ引下ヲ主張ス 私有財産制度ヲ撤廢シ又ハ少クトモンレヲ著シク制限シタル共産社會ニ於テハ像防的制限ハ行ハレズ、人口過剰ヲ現出スベシ
同人		國民經濟雜誌 昭和二年十二月一日發行	共產社會ト人口制限	一、勤儉努力ノ獎勵 二、自給自足
大工原銀太郎	九州大學 總長	現大正十五年十二月號	我國ノ食糧問題	人口政策トシテハ 一、下層階級ノ産兒制限ヲ肯定スルカ 二、最低賃銀制度ヲ樹立スルカ 三、然ラザレバ現在ノ勞働所得ヲ以テ増加人口ヲ支持スルコトノ出來ナイ階級ニ就キ生活不足額、醫療費、教育費ニ關スル費用ヲ國家ガ負擔スルコト
増田抱村	人口食糧問題調査會囑託	社會事業第十一卷第一號 昭和二年十一月十五日	人口論上ノ階級別産兒問題	

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
アルベール・トーマ	國際事務局長	一九二七年世界人口會議演說(原稿校正刷)	國際移民機關	人口ノ解決ハ主トシテ移民ニヨルベキヲ説キ、ソノ國際的解決機關ヲ設ケヨト主張ス
宮島幹之助	醫學博士	昭和二年一月號	人口問題ノ生物學的一考察	文化ノ必然的現象トシテ出生率減少ス、出生率ノ減退ハ國民ノ體質ヲ低下セシムルニ至ル
長谷川如是閑	評論家	エコーノミスト 昭和二年一月一日	人口問題ト現代國家ノ矛盾	人口問題ハ分配ノ不均衡ヨリ起ルモノナリ
外務省情報部	國際時報 昭和二年十月十日	日本移民ニ關スル日本新聞雜誌記事論調		日本移民ニ賛意ヲ表セルモノノ四篇、留保附賛成説ニ歸著スヘキモノノ四篇、反對ノ別明瞭ナラサルモノノ九篇
農伯業國協々會民	昭和二年十月十日 人口食糧問題調査會移入資料第十號	伯國國民農業協會ノ移民問題ニ關スル調査		一九二五年伯國內各地ノ人士ニ對シテ左ノ如クシタル質問ニ對スル回答ノ種類移民賛成回答數七五、同色反對移民問題ニ關シ言及ナキ回答數七
				一、耕地ニ比シテ人口ノ過剩ナル處ハ明治以前ヨリ已ニ地方的移動アリシガ明治以後

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
小田内通敏	慶大、早大 講義人口食糧問題調査會囑託	人文地理第一卷 第一號	西南日本ニ於ル人口移動	二、明治年間ニ於テ新ナル移動現象ハ海外ニ對スル移住ナリ、初メハ北米其他ニ永住的ニアラザル出稼多カリシモ、最近ハ農業ヲ主トスル永住的移動ガ南米ブラジルニ至レリ
長尾半平	東京基督教青年會理事	實業之日本 昭和二年一月一日	年々八十萬ニ上ル人口ノ増加果シテ憂フベキカ	人口増加對策トシテ産米増殖策、海外移民策、産業立國策ヲアゲ産兒制限ニ反對ス
猪谷善一	企業ト社會 昭和二年二月號	我が國人口問題ノ根本問題		一、我が國給與率、死亡率出生率等ヲ低下セシムベシトシ、又産業自由ノ經濟政策ヲ樹立スベシトナス 二、移民政策ニハ價值ヲ認メズ
河上肇	京大教授 法學博士	昭和二年二月十六日發行	人口問題批判	一、現在ノ資本主義的社會經濟組織ノ變革以外ニ根本的解決ノ途ナシ 二、武力的領土擴張政策不可 三、移民ト商業工業ノ發展不可 四、産兒制限ハ民族ヲ退嬰衰亡セシムルヲ以テ不可

人名	有之英夫	略歴	著書名又ハ雜誌名及ビ年月日	題目	主 張 大 要
			企業ト社會 昭和二年二月號	人口食糧調査會 ニ望ム	一、人口食糧問題調査會ガ龍頭 蛇尾ニ終ラザランコトヲ希 望ス 二、食糧増産ヲ行フベシ

國名	英 國	佛 蘭 西	獨 逸	大 要
著書名及年月日	海外興業會社發行 -世界ニ於ケル人口問題ノ現 狀(昭和二年二月)			
大 要	一、失業ノ増加、入超ノ急増、財政ノ膨張、海外移住者ノ減少ハ英國ニ於ケル人口過剰ノ聲ヲ盛ニス 二、輸入抑制策、移植民政政策、消費節約策何レモ失敗 一、佛蘭西ハ人口減少ニ苦シミツツアリ 二、産兒奨励ニ努力シツツアリ	一、戰後食糧ノ不足ニ苦シム 二、農業ノ振興ハ困難 三、一九一九年八月國內移住法施行 四、獨逸ノ財政經濟ノ困憊ハ人口問題ノ解決ヲ益々困難ナラシメル 五、産業振興ニ力ヲ盡ス	一、露西亞ニ於ケル人口過剰ノ脅威ハ内外ノ戦亂ト經濟制度ノ革命トニ依ツテ著シク其ノ時機ヲ早メラル 二、食糧政策、失業對策トシテ産業振興及大殖民計畫ノ必要ニセマラル	

275115

支 那	印 度	伊 太 利	聯ソ ビエ ツト 邦	大 要
同	同	同	同	
前	前	前	前	
大 要	一、支那ノ人口増加ハ驚クベキモノアリ 二、人口對策ハ異論百出ノ状態ナリ	一、印度ニ於ケル人口増加率過少ノ原因ハ主トシテ人口過剩ガ營養不良ノタメ生活状態劣惡トナリタルニヨル 二、英國食糧政策ノ犠牲ノタメ同國農産物ノ生産増加以上ニ輸出増加ヲミル	一、「伊太利ノ人口ハ増殖スル。故ニ伊太利ニハ膨張ノ權利アリトノムツソリーニ氏ノ所論ニ基キテ大伊太利帝國ノ建設ニ努ム 二、産兒増加策ヲ講ズ 三、資源植民地ノ獲得ニ力メザルベカラズトス	一、人口食糧問題調査會ガ龍頭 蛇尾ニ終ラザランコトヲ希 望ス 二、食糧増産ヲ行フベシ

人口の制限ヲ可トスルモノ
富ノ分配ヲ平等ニスベシトナスモノ
人口移動(人口分布ノ合理化)ヲ
可トスルモノ
余天休氏

陳長衡氏
陳獨秀氏
余天休氏

最モ有力ナルハ邊境充實策(實邊政策)ナリ

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
上田貞次郎	法政大學教授	企業ト社會 昭和二年二月號	我が國ノ人口及食糧問題	一、貿易ノ自由及産業ノ國際化ニヨリテ産業ヲ振興シ增加 二、人口ヲ吸收スベシトナス 移民ニハ價值ヲ認メズ
若槻禮次郎	民政黨顧問	統計時報 昭和二年三月號	昭和二年二月二日貴族院豫算委員會ニ於テ人口食糧問題ニ關スル質問大臣ト對シテノ答辯	人口食糧問題ノ解決トシテハ日本全體ノ産業ノ發達ヲ計リ之ニ因ツテ輸出ヲサカンニスルコトナリ
稻垣乙丙	農學博士	統計時報第十八號 昭和二年三月	再ビ人口ノ増殖ニ就テ	「パール及リード氏ノ法則ト予ガ立テタル法則トノ比較」及ビ「人口増進ノ軌道ノ變向」ニ就テ説明ヲ爲ス
井上雅二	海外業社長	南洋協會雜誌 昭和二年四月號	我が國ノ人口及食糧問題ニ就テ	一、海外移殖政策ノ實行 二、國家主義ノ傾向ナク而シテ人種問題ノ僻見ナキ南洋ニ於テ彼我共存共榮ヲ圖ルベシ 三、食糧増産政策、商工立國策、食糧消費制限策、農村振興策ハ勿論之ヲ實行スベシ

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
藤山雷太	貴族院議員	南洋協會雜誌 昭和二年一月五號 南洋協會雜誌 昭和二年八月號	我國策ト南洋進出口食糧問題調査會ノ設置ニ就テ	一、人口増加政策ノ實行 二、邦人ノ海外發展(特ニ南洋方面)ノ獎勵 三、對外施設(特ニ南洋方面)ヲ先ニシ且之ヲ主トスルタメ應急對策トシテ先ヅ拓務省設置ヲ主張ス
下條康麿	內閣計局長	統計時報 昭和二年六月	異常ナル人口増加ト生活問題	最近我國ノ人口ハ死亡率低下ニヨリ益々増加ノ趨勢ニアリ人口問題ノ解決ハ結局生活問題ノ解決ニアリトス
永田稠	信濃會理事	雜誌ブラジル 昭和二年六月號	神武建國ノ志	日本民族ハ勞資共ニ生キンガタメニ海外移住ヲ爲スベシト論ス
正田貞一郎	日清社長	毎夕新聞 昭和二年七月二十五日 掲載	行詰ツタ輸出ノ打開策	一、食糧問題ノ解決及行詰レル輸出ノ打開策トシテ原料小麦ヲ輸入シ製粉事業ヲ振興スルコト 二、製粉ノ販路ハ支那南洋ナリ
福岡日日新聞		社説「人口問題」 昭和二年三月二十三日所載		一、人口増加ニ對スル自由放任又ハ出產制限ニ反對 二、人口増加ニ對スル保護ニ賛成

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
梶原仲治	元勸銀總裁	都新聞昭和二年七月十三日掲載	人口食糧問題ノ解決ニ就テ	其ノ方法 (イ)内地ノ産業ヲ盛ニスル (ロ)海外移殖民ノ奨励 (ハ)國內植民ノ實行 海外移住政策ニ價值ヲ認メズ 内地開拓ヲ主張ス
矢内原忠雄	東大教授	中央公論 昭和二年七月號	時論トシテノ人口問題	一、移殖民政策、産業振興、産兒制限ハ何レモ無價値ナラザルモ不徹底ナリ 一、資本家の生産方法ノ排除
高田保馬	文學博士	昭和二年八月	人口ハドウナルカ	現在ノ私有財産制度ヲ前提トシテ人口對策ヲ考フルニ 一、出生制限ハ國民全體ノタメニ戒心スベク又避クベキコトナリ 二、商工業ノ振興ハ唯一ノ方法ナルモ之ヲ實現シ得ベキ特効ノ名案ナシ、アリトスルモ實行難ナシ 故ニ人口問題ニ對スル解決策トシテハタダ放任ノ一途アルノミ

小泉信三	慶大教授	昭和二年九月一日 財政經濟時報	勞農露西亞ノ人口及失業問題	露西亞ニ於ケル都市ノ労働者失業ノ原因ハ農民ノ都市流入ニ在ル
高柳松一郎	法學博士	「人口ト移住」 昭和二年九月一日 第三號	人口問題ト日支關係	人口問題解決方策 一、商工業ノ振興 二、移殖民ノ奨励 三、食糧ノ節約 四、産兒制限 此ノ問題ニ關シテノ支那ノ價值一、滿洲ハ好個ノ移殖地ナルガ故ニ此地ニ移民ヲ送ルベシ 二、現在ノ動亂ノ鎮靜シタル場合、日本ノ商工業ハ發展スベシ
松岡洋右	滿鐵副社長	政治經濟雜誌 昭和二年十月號	解決ノ鍵ハ滿蒙ノ開拓	植民政策トシテ滿蒙ヲ開拓スベシ
東郷實	農學博士	同 前	日本ヨ資源分配ノ公平ヲ求メヨ	人口政策トシテ海外移民、資源分配ノ公平ヲ世界ニ求メヨ
吉村哲三	大阪府 内務部長	「人口ト移住」 昭和二年九月一日 發行	人口政策ト移殖民事業	人口政策 一、食糧ノ増加 二、商工業ノ振興 三、國內外ノ資源開拓 四、海外移民

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
武藤山治	鐘紡社長	「人口ト移住」昭和二年九月一日發行	人口問題ト財政	人口政策トシテ我國ノ財政ヲ革新シ節約ニ依ル金ヲ以テ「ブラジル」其ノ他ニ移民ヲ送ルコトヲ提案ス
峰整道	政治經濟時論社長	政治經濟雜誌昭和二年十月號	國策トシテノ人口食糧問題(社説)	一、移植民可 一、産業振興可 一、農村振興可
清水文之輔	太陽生命專務取締役	同前	人口食糧問題トソノ根本的解決策	支那トノ經濟聯盟ヲ締結スベシ
山崎直方	理學博士	同前	科學ノ力ハ人口食糧問題解決ノ鍵ヲ握ル	土地、農耕等ノ科學的改良ヲ説ク
益田考	同前	同前	食糧問題解決ノ一策トシテノ代用食	一、代用食ヲ獎勵セヨ
櫻澤如一	同前	東方公論昭和二年十月號	産兒制限論檢討	未調査

土方成美	帝大教授 經濟學博士	東京朝日新聞 昭和二年十月二十五日	人口問題ト資本主義經濟	一、産兒制限ハ人口解決法トシテ國家ガ之ヲ行フコトハ困難ナリ 二、日本ハ商工業ニヨリ人口ヲ收容スルヨリ外ニ道ナシ
大阪毎日新聞		昭和二年十月十四日社説		一、産兒制限ノ問題ハ、人口對策トシテハ、幾何ノ價值モナシ 二、人口過剰ノ問題ハ、生産力ノ發展ニヨツテ解決サレル
高田保馬	文學博士	昭和二年九月及十月號改造	人口問題ノ反比判	一、生産力ト人口トノ間ニハ $\frac{人口}{生産力} \times 生産力 = 人口$ ナル一定ノ關係アリトシ、之ヲ以テ社會人トシテノ人口一般ノ法則ヲ示ス人口方程式ナリトス、更ニ右ノ人口一般ノ法則ヲ基礎トシテ資本家の社會ノ人口法則ヲ説明ス 二、日本ノ人口問題對策トシテハ放任ノ外途無シトナス 三、河上博士ニ對シテ駁論ヲナス 一、氏獨自ノ觀點ヨリ「マルサス」人口法則ヲ承認ス

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
ワーレン タムソン	米國ミシガン大學教授	「人口ト食糧問題」 昭和二年九月十八日發行		二、農業ト非農業的産業トノ間ノ勞働分配ノ合理化ノ必要 三、右ノ解決ナキ限リ過剰勞働ヲ農業ニ收容スルコトハ不可 四、進歩的生活標準ノ阻止必要 五、人口問題研究ノ對照ヲ優生學的問題ニマデ持チ行ク必要アリ
矢内原忠雄	帝大教授	帝國大學新聞 昭和二年十月十日號	人口食糧問題ト優生運動	未調査
永井亨	經濟學博士	東京朝日新聞 昭和二年十月三十一日所載	人口問題ト世論	人口政策ハ 社會ノ生産力ノ増進ニアリ
守屋榮夫	社會會部局長	日本社會學會講演 昭和二年十一月七日	海外移住ニ就テ	一、海外移住ノ主ナル效能トシテハ (イ) 貿易外收入ノ源泉 (ロ) 海外投資ノ誘導 (ハ) 海運業ノ如キ附屬事業ノ助成トナルコト

佐伯 矩	營養所養長研	同 前	營養ト繁殖トノ關係	一、生殖ニハヴイタミンXノ採食ヲ必要トス 二、人ハ生殖外細胞ノ衰ヘ居ル時ハ生殖細胞ガ盛ナリ
戸田貞三	東大助教授	同 前	「自然ノ人口ト人工ノ人口」	人口問題解決策トシテ 一、優生學的人口制度ヲ主張ス
野津 務	九州帝大教授	エコノミスト 昭和二年十一月十五日	「人口問題管見」	人口政策ニ就テハ 一、商工業立國策可
高田保馬	文學博士	昭和二年十一月發行	人口ト貧乏	人口及貧乏ニ關スル論文ヲ集ム 人口ニ關シテハ、一、産メヨ殖エヨ、二、人口問題私見、三、人口ハドウナルカ、四、人口問題ノ反批判ノ四篇ヲ收ム、人口問題トシテハ放任論ヲトル
高橋龜吉	日本農民黨員	婦人公論 昭和二年十一月號	現下ノ三大經濟問題	人口政策 一、資本主義的經濟制度ノ變革 一、世界ニ於ケル資源領土ノ門戶解放
中橋德五郎	商工大臣	大阪朝日新聞 昭和二年十一月十八日掲載	中橋商相ノ人口論	人口政策 一、商工業ヲ盛ニスベシ 二、移民ヲ必要トセズ

人 名	室 伏 高 信	那 須 皓	那 須 皓
略 歴	評 論 家	農 學 博 士	農 學 博 士
著書名又ハ雜誌名及ビ年月日	中央公論 昭和二年十二月 號	昭和二年十二月 發行	昭和二年十二月 號 經濟往來
題 目	人口問題ノ文明 批評	人口食糧問題	河上高田兩博士 ノ人口論ヲ評ス
主 張 大 要	<p>一、人口問題ノ行詰リハ現代文明ノ行詰リナリト解ス</p> <p>著者ガ昭和二年中公ニシタル人口問題ニ關スル諸論ヲ蒐メタルモノナリ</p> <p>人口食糧問題ニ關スル要點ノ所在地ト、要點相互間ノ關係ヲ考察シ、具體的解決策ヲ提唱ス</p> <p>河上高田兩博士ノ論争ノ主點タル</p> <p>一、マルクス人口法則ノ妥當性</p> <p>二、商工業ノ振作ガ我が過剩人口ノ對策トシテ有效ナリヤ</p> <p>ノ二點ニ關シ意見ヲ述ブ、前者ニ關シテハ、マルクスノ人口法則モ高田博士ノ人口法則モ共ニ多分ノ蓋然性ヲ有スルモノトシテノミ成立スルニ過ギズトナシ後者ニ關シテハ商工業振作ハ過剩人口ノ對策トシテ意味アリトナス</p>		

人 名	乾 精 末	清 澤 洌	池 田 林 儀
略 歴			
著書名又ハ雜誌名及ビ年月日	外交時報 昭和三年一月十日	優生運動 昭和三年一月號	同 前
題 目	國際問題トシテ ノ適度人口	産兒制限ハ自由 問題トセヨ	優生學的妊娠調 節ノ必要トシテ 方法
主 張 大 要	<p>實蠅、鼠、南瓜等ニヨル實驗ノ結果、細胞ノ分裂増殖ニヨツテ起ル動物生長ノ度ヲぐらふノ上ニ現ハシタル曲線ト一七五〇年以來完全ニ國勢調査ノ行ハレタル瑞典ノ人口増減ヲ示ス曲線トガ大略一致セルコトヲ證據立テタリ</p> <p>斯ル結果ヨリ推論セバ合衆國ヤ日本人ノ人口ノ將來ナドモ大體豫想スルコトヲ得ルニ至ル</p> <p>一國ノ適度人口ハ有無相通ズル世界經濟ノ上ニ立脚セザルベカラズ</p> <p>制限ト否トハ各個人ノ絶對自由ナルガ故ニ制限ヲ欲スル人々ニ其醫學的常識ヲ教ヘルコトハ國家ノ義務ナリ</p> <p>國家民族ノ優化ノタメニハ國家ハ妊娠調節ニ對シテ積極的ニ其ノ指導監督ノ任ニ當ル必要アリ</p>		

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
尾上菊五郎 <small>六代目</small>	俳優	「優生運動」 昭和三年一月號	産兒制限ニ就テ	民族優化ノ爲メ産兒制限ハ必要ナリ
平塚らいてう	評論家	同前	同前	人口問題對策ノ一トシテ優生學的見地ヨリ大イニ數ヲ調節スルコトヲ必要トス
横田秀雄	法學博士	同前	同前	人口過剩問題ト産兒制限トヲ關係セシメルコトハ反對ナリ 性慾制限ニヨル産兒制限ニハ賛成、性慾ヲ放縱ニ享樂シタル後ノ機械的産兒制限ニハ反對
松下芳男		國際知識 昭和三年一月號	人口過剩ト戦争必然性ノ條件	人口ノ過剩ハ資本主義制度下ニ於テノミ問題トナルモノニシテ該制度ノ下ニ於テハ人口過剩ニヨル戦争ハ必然不可避ナリト説ク
新渡戸稻造	農法學博士	「優生運動」 昭和三年十月號	産兒制限ニ就テ	産兒制限ナクシテ民族優化ノ目的ヲ達スルコトヲ得ズ
二荒芳徳	伯爵	同前	同前	自我本位ノ産兒制限論ハ生命本質上ノ邪説ナリ人道上ノ問題トシテ特殊ノ病根ヲ子孫ニ傳フルガ如キ虞アル特定人ノ産兒ハ制限スベシ

河口愛子	小石川高等女學校長	同前	同前	人口問題ノ解決方法トシテハ、衣食住ニ關スル費用ヲ節約スルコトヲ第一ニ考フベシ
三輪田元道	三輪田高等女學校長	同前	結婚改造論	人間ニ優生學ヲ應用スルコトハ日本ノ現狀ニ於テ國家ノ制度トシテ尙早ナリ
堀江專一郎	法學博士	同前	産兒能力制度ノ立法論	「アメリカ」ニ於ル現時ノ立法主義ニ於テハ去勢ニヨル絶對性交能力破壊マデニハ進マズ、唯遺傳ニヨツテ心身ノ缺陷者竝ニ犯罪者ガ増加スルコトヲ防グノ程度ニ止ム
奥むめを		同前	産兒制限ニ就テ	産兒制限ハ貧富ノ如何ニ拘ハラズ絶對ニ必要ナリ
毎夕新聞		昭和三年一月	有産階級ノ婦人が頻リニ産兒調節	東京市社會局ガ市内數箇所ノ産兒制限相談所ヲ頼ツテ相談ニ來タ婦人百五十五人ニ付産兒調節ノ理由ヲ調査シタ結果 百五十五名中、九十九名ガ正當ナ必要上ノ調節ヲ求メ、他ノ六十一名ハ何レモ己ノ犯シタ罪ヲ隠スコトヲ目的トシタ

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
高田保馬	文學博士 九大教授	福岡日日新聞 昭和三年一月十七日	食糧問題	食糧問題解決策トシテ 一、租税ヲシテ都市ト農村トノ間ニ於ケル收益ノ經濟化ノ役目ヲ營マシムルコト 二、資金ノ地方還元、スベテノ事項ニ關スル地方分權ノ遂行 三、銀行組織ノ改革化ニヨリテ農村ノ一般状態ヲ改良メル努力ヲ同時ニ行フコト 四、農村ノ工業化
東郷實	農學博士	科學知識 昭和三年一月	科學的植民政策ノ提唱	我邦今日ノ植民政策ハ法律萬能ノ思想ニ出發シタ同化主義、母國延長主義ナルガ、異ナル原住民族ニヨツテ成リ立チ、氣候、風土ノ異ル植民地ニ於ケル統治ノ實際ニ於テハソレト、特異ノ施設經營ガ行ハルベキナリ、即チソノ植民政策ノ根本方針ハ民族心理學ヲ基調トセル學術的考察ノ下ニ科學的ノ方策ヲ確立スルコトニ存ス

横尾惣三郎	樺太農林部長	北海タイムス 昭和三年一月七日	人口食糧問題ノ解決ト北方經營	人口問題ノ眞諦ハ土地對人口ノ關係ニ非ズシテ資源對人口ノ關係ナリ、故ニ人口ニ比シ天然資源ノ比較的豊富ナル天地ニ向ツテ人口ヲ移植シ同時ニ未發見乃至未開發ノ資源ヲ利用スヘシ
永井潜	醫學博士 東大教授	國民新聞 昭和三年一月八日	産兒制限ノ根本問題	優生學上ノ見地カラスレバ、現在ノ産兒制限ヲ無制限ニ實行スルト、數ヲ減ズルト共ニ、質ヲ惡化セシメル
河野恒吉	朝日新聞編輯顧問	東方公論 昭和三年一月號	徒ニ聲ヲ大ニスルナ	我國ノ滿蒙政策トシテ擧グベキ事項 一、世界各國ヲシテ支那ノ御機嫌取リヲヤメシムルコト 二、必要ナ場合ニハ應懲ノタメニ各國ト共同シテ支那ニ制裁ヲ加フルコト 三、我國政界モ不謹慎ナ言動ヲセヌコト、在朝在野ヲ問ハズ共ニ共同シテ支那トノ融和ヲ圖ルコト

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
植原悦二郎	外務省 參與官	東方公論 昭和三年一月號	現政府ノ滿蒙政策	從來我國ノ滿蒙政策ガ理想的ニ行カナカッタノハ行政制度ノ罪ニ非シテ、人ノ問題ナリ、故ニ人材ヲ登用シテ滿蒙政策ニ當ラシムベキナリ
杉浦宗三郎	工學博士	同前	枯骨ヲ埋メル覺悟ヲ進メ	植民政策トシテ滿蒙ヘ永住的ノ移民ヲ送ルコトヲ要ス
坂西利八郎	貴族院議員	同前	國民自ラ道ヲ開ケ	國民ハ徒ニ政府ノ滿蒙政策ノミニ頼ラズ、自ラ進デ支那人ト握手スベシ
村田熊三	同前	同前	滿蒙植民ニ關スル一方策	人口問題解決策トシテ滿蒙移民ヲ獎勵スベシ、其方法トシテ 一、在郷軍人ノ活用 二、朝鮮人移植
井上雅二	海興社長元 衆議院議員	同前	滿蒙ヲ開發スル人材	人口問題解決策トシテ 一、内地人ヲ朝鮮ニ送ルコト 二、更ニ滿蒙政策トシテ滿蒙植民事業ニ堪能ナル人材ヲ得ルコト

人名	略歴	著書名又ハ雑誌名及ビ年月日	題目	主張大要
末永一三	同前	同前	我國ノ二大使命	日本ノ滿蒙政策ニ對スル使命ハ文化的使命ト經濟的的使命ナリ
津久井龍雄	同前	同前	滿蒙對策悲觀論	一、對外策ヲトルヨリモ先ヅ内國ノ改造ヲ試ミヨ 二、軍國主義、國家主義ハ決シテ惡シキモノニアラズ、唯テ注意スベキハ之ヲ表面カラ露骨ニヤツテハナラヌダケデア 三、我國ハロシアト提携シテ支那ニ於ケル英國資本主義ヲ驅逐スベシ 四、但シ今之レヲ實行スルダケノ人物ナシ
鈴木島吉	鮮銀總裁	同前	滿鮮開發ト我移民ノ將來	滿蒙移民ヲ主張スラズシテ質ノ移民ナリ
永井亨	經濟學博士	太和陽 昭和三年一月號	世界ノ人口論ヨリ日本ノ人口論	河上博士ニ依ル「マルクス」人口論、高田博士ノソレニ對スル批判ト其ノ案出ニカカル一般人口論ニ對シテ、以上兩者ニ對スル批判ヲ評論ス、次號ニ於テ完結ノ答ナリ

IX. II. 3. / 30

書庫

三
四
五
六
七

法律資料第一課
27.9.26
調査立法審査局

